

インターポート

兵庫教育文化研究所だより

No.177

2016年12月26日

発行所 兵庫教育文化研究所
〒650-0004

神戸市中央区中山手通 4-10-8

本音で話し合える道徳をめざして 人権教育部会 授業研究会

人権教育部会が、芦屋市の小学校において授業研究会をおこないました。6年生の道徳で、資料は「ブランコ乗りとピエロ」(『私たちの道徳』文科省)でした。資料から心情を読み取るだけの授業や、指導者が価値を押しつけるような授業ではなく、子どもたちが主体的に話し合える授業、自分を見つめ直すことにつながる授業をめざし、とりくまれました。



本時は2時間計画の2時間目でした(授業の流れは兵教組の「組合員専用HP」に掲載した指導案をご覧ください)。前時の「サム(ブランコ乗り)の言動を理解できるか」という問いに対して「あまり理解できない」という反応が多かった子どもたちが、物語を最後まで読み、友だちと意見を交流する中でどのように考えるのかが注目されました。

前半、「あなたがピエロだったらサムに何と言いますか」に対しては、まだピエロに否定的な意見が多かったですが、交流の中でピエロの努力を認める意見も発表されました。そして最後に「ピエロやサムの言動から、これまでの自分を振り返る」場面では、ピエロを肯定的にとらえる意見が増えた一方で、単に説得力のある意見に流されるのではなく、自分の思いを大切にしたい意見も発表されました。本時の授業だけでなく、これまでの学級づくりの成果を感じられる子どもたちの姿でした。



この授業は全校の授業研に位置づけられ、授業後の研究会にも大勢の参加がありました。ここでもグループ討議をおこない、「道徳の授業のねらい」「児童の振り返りと評価」「アクティブ・ラーニング」等について話し合われました。授業の感想はもちろん、移行期間にどうとりくんでいけばよいか等、学校現場の悩みや思いが交流されました。

まとめでは協力研究所員から「人権を大切にしようとするなら、まずは『児童観』が大事。それが『授業観(指導観)』にどうつながるかが指導案づくりのポイント」「人権視点にふみこんだめあてとするには『人権教育の指導方法等の在り方について(第三次とりまとめ)』にある表現を元に、道徳の『価値項目』をより具体的にしていく必要がある」「教員が押しつけず、成長を促す支援に徹する授業、お説教型ではなく双方向の価値葛藤がある授業をつくっていかう」と提起がありました。今後人権教育部会では、人権を根底に据えた道徳授業をめざして研究を続けていきます。

(本授業の指導案は「組合員専用ページ」に掲載しています。ID、パスワードは各支部へお問い合わせください。)